

R2 推薦書案の修正ポイント

1 資産名称

- ・ 価値説明で「金」や「島」を強調するため、よりシンプルで呼び易い名称に変更。

旧 「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」
“The Sado Complex of Heritage Mines, Primarily Gold Mines”



新 「佐渡島の金山」 “Sado Island Gold Mines”

2 対象時期

- ・ 更なる比較研究から、伝統的手工業による金生産システムにこそ佐渡金銀山の世界遺産的価値があることが判明。

旧 戦国時代末～明治時代前半（近代化への円滑な移行まで）



新 戦国時代末～江戸時代（伝統的手工業による金生産の時代）

3 構成資産

- ・ 異なる2つの鉱床（鉱脈鉱床・砂金鉱床）の金採掘技術を主張する際に、鉱脈鉱床開発の先駆けである鶴子銀山は相川金銀山と物理的に古道でつながる一つの資産として扱うこととした。

旧	① 相川金銀山	⇒	新	① 相川鶴子金銀山（相川金銀山＋鶴子銀山）
	② 鶴子銀山			② 西三川砂金山
	③ 西三川砂金山			

4 顕著な普遍的価値（OUV）

人類が最も希求する金獲得のための伝統的手工業を追求することにより、金生産システムを究極の形にまで高めたもの。

○顕著な普遍的価値の観点

- ・ 大規模な金鉱床（相川金銀山：類を見ない程深い鉱脈鉱床、西三川砂金山：広範囲にわたる堆積砂金鉱床）
- ・ 伝統的手工業により17世紀に世界最大級の産出量を上げ、世界貿易や徳川幕府に貢献
- ・ 国家（幕府・佐渡奉行所）による直接経営と統治
- ・ 金生産体制（日本中から鉱山労働者を集めて組織化・専門分化された集団とその集団が育んだ芸能・信仰）
- ・ 金生産技術（伝統的手工業による鉱業技術とその一連の工程）

○評価基準

iii) 文化的伝統：集落遺跡は生産体制（含庶民文化）を伝える物証

江戸時代（1603年～1867年）を通じて日本を統治した徳川幕府にとって財政基盤を支える最も重要な鉱山であり、幕府は佐渡を直接支配し徹底した金生産の管理を行った。

また、幕府は日本中から優れた鉱山労働者を集め、大規模な生産体制を形成した。さらにそこには豊かで独特な芸能・信仰といった庶民文化も生まれた。

iv) 科学技術の集合体：鉱山遺跡はその生産技術を伝える集合体

江戸時代の鎖国政策により、西欧及びその進出先の鉱山で発展した科学技術や機械装置は導入されず、伝統的手工業による金生産が長期間にわたって続けられ、各鉱床の特性に適合した鉱山技術及び一連の生産工程が究極にまで高められた。

「佐渡島の金山」では、採掘から選鉱、製錬、貨幣製造までの、金に関わる一連の生産工程が全て行われた。